

米国による追加関税のインドへの影響について インドの成長ストーリーへの影響は限定的

8月6日、米トランプ大統領はインドに対して25%の追加関税をかける大統領令に署名しました。追加関税、インドへの影響、今後の見通しについて解説いたします。

➤ 追加関税のインドへの影響

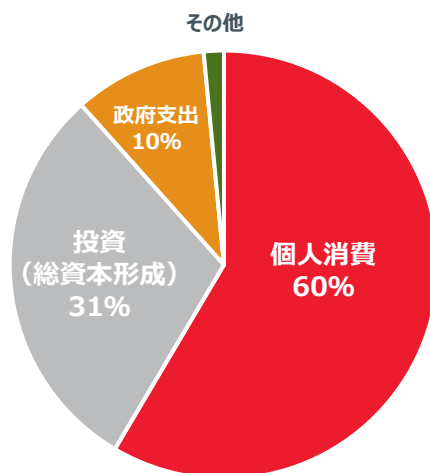
追加関税について：

- 8月6日、米トランプ大統領が、インドに対して25%の追加関税を課す大統領令に署名しました。これは、インドがロシア産原油の輸入国であることが理由となっています。米国政府は7月31日に、インドの相互関税を25%にすることを発表したばかりですが、今回の公表はこれに上乗せする形になるため、インドに対して合計で50%の関税が課される予定になります。
- 追加関税の発動日は8月27日とみられています。今回の追加関税が予定通りに発動されるかについては、今後の米国とロシアの政治的な側面や、インドの対応などに左右されると考えられています。

インドへの影響について：

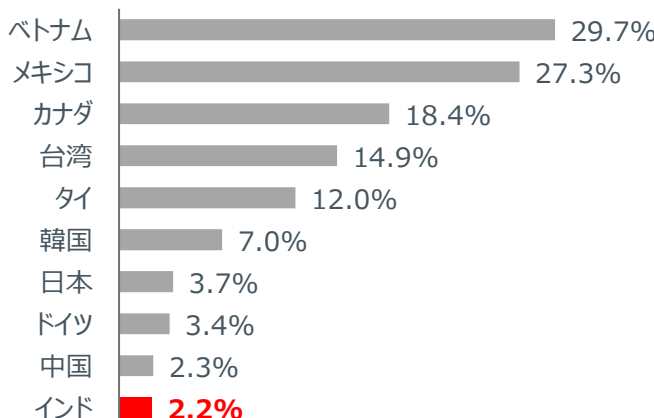
- インドの名目GDP（国内総生産）は、約60%を個人消費が占めており、内需主導型の経済構造となっています。また、インドの名目GDPに占める米国向け輸出比率は2.2%と他国より相対的に低く、外的なショックへの耐性が高いといえます。そのため、今回の追加関税はインドの実質GDP成長率を一時的に押し下げる可能性はあるものの、今後も相対的に高い成長率が維持される見込みです。
- インド政府は関税の影響によって農業を含む主要セクターに悪影響が及ぶことがないよう、世界最大の人口を抱えた自国の生活を守る姿勢を改めて強調しています。
- 一部の品目（スマートフォン、パソコンなど）は相互関税の対象外となっています。今後の交渉次第では、自動車の完成車への関税緩和の可能性もあります。

【インドの名目GDP内訳】
(2023年度)



※その他は、純輸出（輸出-輸入）の-2%を含む。四捨五入の関係で数値の合計が一致しない場合があります。
※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。例えば2023年度は2023年4月～2024年3月。
出所：インド準備銀行のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

【各国の米国向け輸出依存比率】
(対名目GDP比、2024年)



出所：米国商務省（2025年2月）、IMF世界経済見通しデータベース（2025年4月）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

○この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

250818(01)

(1/2)

➤ 市場の反応と今後の見通し

インドの株式市場の動向について：

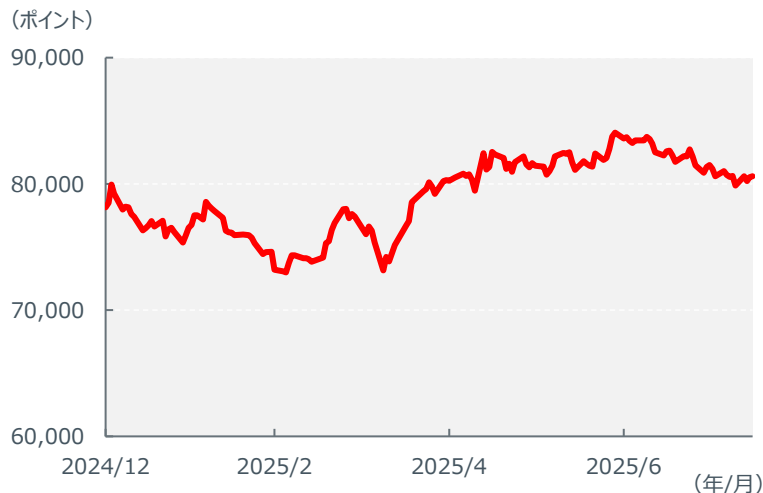
- インド株式市場は、今回の追加関税の報道後も大きな変動は見られず、冷静な動きが続いています。特に報道後も、内需関連セクターなどを中心に底堅い推移が続いています。

今後の見通し：

- 当社では、現時点において今回の米国による追加関税のインド経済への影響については限定的であると考えています。米印間の関税交渉は継続しており、状況が流動的であることに加え、関税は企業の長期的な設備投資の判断に影響を与える唯一の要因ではありません。また、インドの主要輸出分野であるITサービスの輸出は関税の対象外になっています。
- インドの上場企業（製薬を除く）への関税の影響は、最終的な水準にかかわらず限定的であると考えています。インド株式は、経済成長という観点から依然として魅力的であると捉えています。過去18ヵ月間、バリュエーションが高いとされてきた中で、今回の追加関税で投資家心理の悪化による調整が起されれば、積極的な投資家にとってはより多くの投資機会となる可能性があります。
- 短期的には、外国投資家のセンチメントの悪化が懸念されるものの、国内投資家による旺盛な資金流入が株式市場を下支えしています。
- インドの構造的な成長要因、堅調な国内需要、そして積極的な政策対応により、短期的な外部要因にもかかわらず、インドの成長ストーリーは力強く継続すると考えています。歴史的に見て、インド株は市場のセンチメントが弱い局面で投資を積み上げることが最良であると考えています。中長期の成長ストーリーに変化が見られない中で、短期的な調整は投資機会となる局面でもあり、可能な限りインド株式市場に長く居続ける事で、インドの成長ストーリーをより享受することが可能になると考えています。

【SENSEX指数の推移】

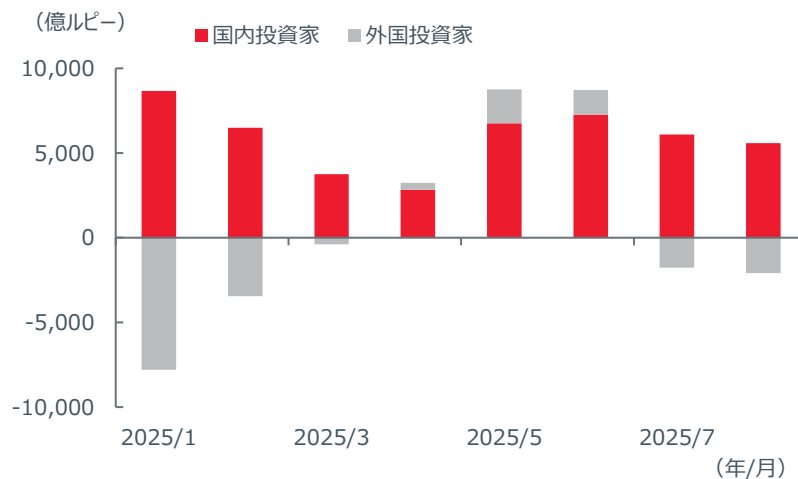
(2024年12月31日～2025年8月14日、日次)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※プライス・リターン、インドルピーベース。

【インド株式市場への純資金流入の推移】

(2025年1月～2025年8月*、月次)



出所：BSE, NSDL（国立証券保管機関）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。*2025年8月は8月14日まで。

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用するグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。